江戸時代前期に僧円空が作った仏像

⑩ 錦岡樽前山神社円空作樽前権現像及び奉納品7点

錦岡樽前山神社には、僧の円空（1632～1695）が 350 年ほど前に作り納めた権現像が奉納されています。権現像の大きさは、高さ 45 ㎝、幅 26.5 ㎝、厚さ 11 ㎝でオンコ（イチイ）の木が材料となっており、その像の背に「たろま㐂乃たけ」と刻名があります。この権現像の特色は、古い文献によって作られた場所や年代等が明らかになっている点にあります。

円空は、寛永９（1632）年、現在の岐阜県にあった美濃国に生まれ、若くして出家したと伝えられています。寛文５（1665）年頃から蝦夷地をはじめ全国各地を行脚し、12 万体の仏像を作り納め、現在発見されているだけでも５千体を越え、北海道では道南を中心に 40 体以上が確認されています。円空が蝦夷地に渡ったのは、寛文 5（1665）年 34 歳の時とされ、その滞在も２年ほどといわれています。寛政３（1791）年蝦夷地を旅行した菅江真澄の紀行「遊覧記えぞのてぶり」によれば、礼文華小幌の洞窟内に５体の仏が安置されており、それぞれの背に銘が刻まれ、その一つに「たろま㐂乃たけ」という仏像があったことが記されています。これによって錦岡の樽前権現像を作った場所が豊浦町の礼文華小幌の洞窟内であり、その年代も寛文６年（1666）７月前後と推定されます。

寛政11年（1799）幕府の役人の松田伝十郎が、小幌の洞窟内に「たろま㐂乃たけ」権現像を含む、円空が作り納めた４体の存在を確認し、背に彫りつけられた地名の山々に持っていきました。「たろま㐂乃たけ」権現像も洞窟より樽前山麓に移され、権現社にまつられました。この権現社については、その後、樽前を訪れた松浦武四郎などが残した文献にも記述がありました。また、長い間、漁業者や住民の崇拝を受けていたことが、奉納品からわかります。明治になって、樽前の権現社は廃止され円空仏は覚生へ、さらに大正10年頃に、現在の錦岡に社殿を移したと言われています。錦岡樽前山神社に奉納されている円空作の権現像と奉納品７点は、当時の様子と表す貴重な資料として市の指定有形文化財となっています。

錦岡樽前山神社円空作樽前権現像及び奉納品７点
市指定有形文化財　昭和 54（1979）年 12 月 28 日指定
所在地：苫小牧市宮前町３丁目６番 20 号
所有者：宗教法人錦岡樽前山神社
管理者：円空作樽前権現像保存協力会

①御宮形

②鏡台

③獅子頭

④竜頭

⑥狛犬

⑦狛犬

⑤絵馬「萬歳」

写真の解説
1 錦岡樽前山神社外観　2 円空作樽前権現像